

令和3年10月29日

# 南の風 For Junior67

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

前号の続きです。

## ④ピンダウン

ボールと逆サイドが、シューターをノーマークにするダウンスクリーンをかけるやり方です。

アライメントは、トップに町田選手、リングに向かって右ウイングに高田選手、左ウイングに林選手、右コーナーに宮澤選手、左コーナーに赤穂選手とします。

高田選手が町田選手の Def にピックをかけます。それに合わせて、林選手が赤穂選手の Def にダウンスクリーンに行きます。町田選手は、高田選手のピックを利用してドライブでペイントを突きます。高田選手はピックの後、ペイントにダイブします。そのとき、右コーナーの宮澤選手は、自分の Def が高田選手のヘルプに行くようなら、ややリフトして 3P シュートを狙います。

逆サイドの赤穂選手は林選手のスクリーンを利用して、カールカットでペイントに飛び込むかポップアウトして 3P シュートを狙います。

いずれにしても、右サイドと左サイドで Def を含めた塊（かたまり）をつくり、ヘルプさせないようにします。

シューターの林選手を生かすのであれば、赤穂選手が林選手の Def にフレアースクリーンに行き、3P シュートを打たすこともできます。

状況に応じて選手が判断してプレーを選択していたように感じました。

この他にも、いくつか特定のサインプレーがあり、状態やリズムが悪いときにポイントガードが指示を出してプレーしていたようでした。

そのうちの一つ、『ホーンセット』（5アウトではないのですが）を紹介します。ホーン（Horn）とは、牛や鹿の『角』という意味です。アライメントは、リングに向かって、トップに町田選手、両エルボーのやや高い位置の右に高田選手、逆側に赤穂選手、右コーナーに宮澤選手、左コーナーに林選手とします。この隊形を上から見ると、牛や鹿が角を広げたように見えることから『ホーンセット』と呼ばれています。NBA ではお馴染みのプレーです。

ホーンセットからの崩し方を3つ紹介します。

一つ目は、ピック&ロールです。ホーンセットの隊形から、高田選手が町田選手の Def にピックを仕掛けます。町田選手は、それを利用してドライブでペイントに侵入します。高田選手はピックの後ダイブします。それぞれのプレーで完結すれば OK ですが、高田選手のダイブに Def が対応した場合（ボールサイドを抑える）、町田選手はそのままパスができないので、左のハイポストの赤穂選手にパスをして、ダイブした高田選手に入るようにアングルを変えることもできます。

このようにピック&ロールから相手の Def を崩して、ポストのハイローの合わせで攻めることも可能になります。

ホーンセットの基本は、ペイントエリアで完結するようにデザインされています。